

# 生涯教育研修活動報告書

細胞検査研究班

- 1 実施日時：2024年2月8日 18時00分～19時30分
- 2 会場：Web開催 教科・点数：基礎教科－20点
- 3 主題：Let's 供覧!! ～どう報告する？伝えようか？この標本 泌尿器編～
- 4 講師：金守 彰（埼玉県済生会川口総合病院）  
並木 幸子（獨協医科大学埼玉医療センター）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 89名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 加藤智美 稲山拓司 野本伊織  
小川弘美 猪山和美

## 8 研修内容の概要・感想など

Let's 供覧!!と題されたこの研修会は、10年以上にわたって企画されており、昨年からは趣向を変えて、一つのテーマをもって開催している。今回は臨床泌尿器や本邦の細胞学会などでも話題となっている The Paris System（以下 TPS）を中心とした内容であった。本研修会は事前に病理細胞診を行っている県内各施設に CD を配布し、アンケートと泌尿器細胞診 5 症例の提示を行い、クエンスタントを用いて回答していただいた。

講演 1 では、金守氏から泌尿器細胞診判定のこれまでの変遷と TPS の基本について解説が行われた。基本的な細胞診所見の取り方から、パニコロウ分類や泌尿器細胞診報告様式 2015 との相違点について講演された。特に、TPS は高異型度尿路上皮癌を見落とさないための報告様式であることを念頭におくことが重要であり、これらの留意点などが簡潔に示された。

講演 2 では、並木氏からアンケート調査と各症例の解説が行われた。細胞診経験年数ごとの解析から詳細な分析結果が示され、回答にばらつきがみられた症例においては、核クロマチン所見などの観察者間差が判定結果に及ぼす影響がみられた。

総じて基礎的な講演から実践まで、TPS に関する総論的な理解が深まった研修会であった。TPS を導入する際には既存報告様式とのすり合わせと泌尿器科医との連携が重要であり、慎重に協議する必要があると考えられた。また、アンケートからも県内における泌尿器細胞診報告の現状について知る機会となった。

提出日：2024年2月13日

文責：猪山和美